

第4章 授業外活動

1.学外の勉学経験の有無

学外の各種学校に通った経験がある学生は11.2%。

経済学部が18.4%で最も高く、商学部・法学部が続く。

経年変化を見ると、平成3年度をピークに大きな変化はなかったが、今回は3年前より若干減少。

知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験がある学生は全体の11.2%となっています。

学部別に見ると、経済学部で18.4%と最も高く、商学部（17.5%）、法学部（15.3%）の順で高くなっています。一方、工学部と薬学部では5%前後と低くなっています。

経年変化を見ると、平成3年度に16.3%と最も高く、他の年度は約13~14%台で推移していましたが、この3年間で1.9ポイントとわずかに減少しました。

	あり	なし
平成21年度全体	11.2%	88.8%
法学部	15.3%	84.7%
文理学部	10.0%	90.0%
経済学部	18.4%	81.6%
商学部	17.5%	82.5%
芸術学部	9.8%	90.2%
国際関係学部	8.9%	91.1%
理工学部	8.6%	91.4%
生産工学部	11.9%	88.1%
工学部	4.8%	95.2%
医学部	12.0%	88.0%
歯学部	9.8%	90.2%
松戸歯学部	8.8%	91.2%
生物資源科学部	7.4%	92.6%
薬学部	6.3%	93.7%
昭和63年度	13.9%	86.1%
平成3年度	16.3%	83.7%
平成6年度	12.8%	87.2%
平成9年度	14.6%	85.4%
平成12年度	14.8%	85.2%
平成15年度	12.9%	87.1%
平成18年度	13.1%	86.9%
平成21年度	11.2%	88.8%

2.学外の勉学経験の有無—学部別経年変化

学外での勉学経験率は、経済学部は平成12年度、医学部は平成3年度がピーク。
全般的に減少傾向にある学部が多い。カリキュラムの改訂が主な要因？

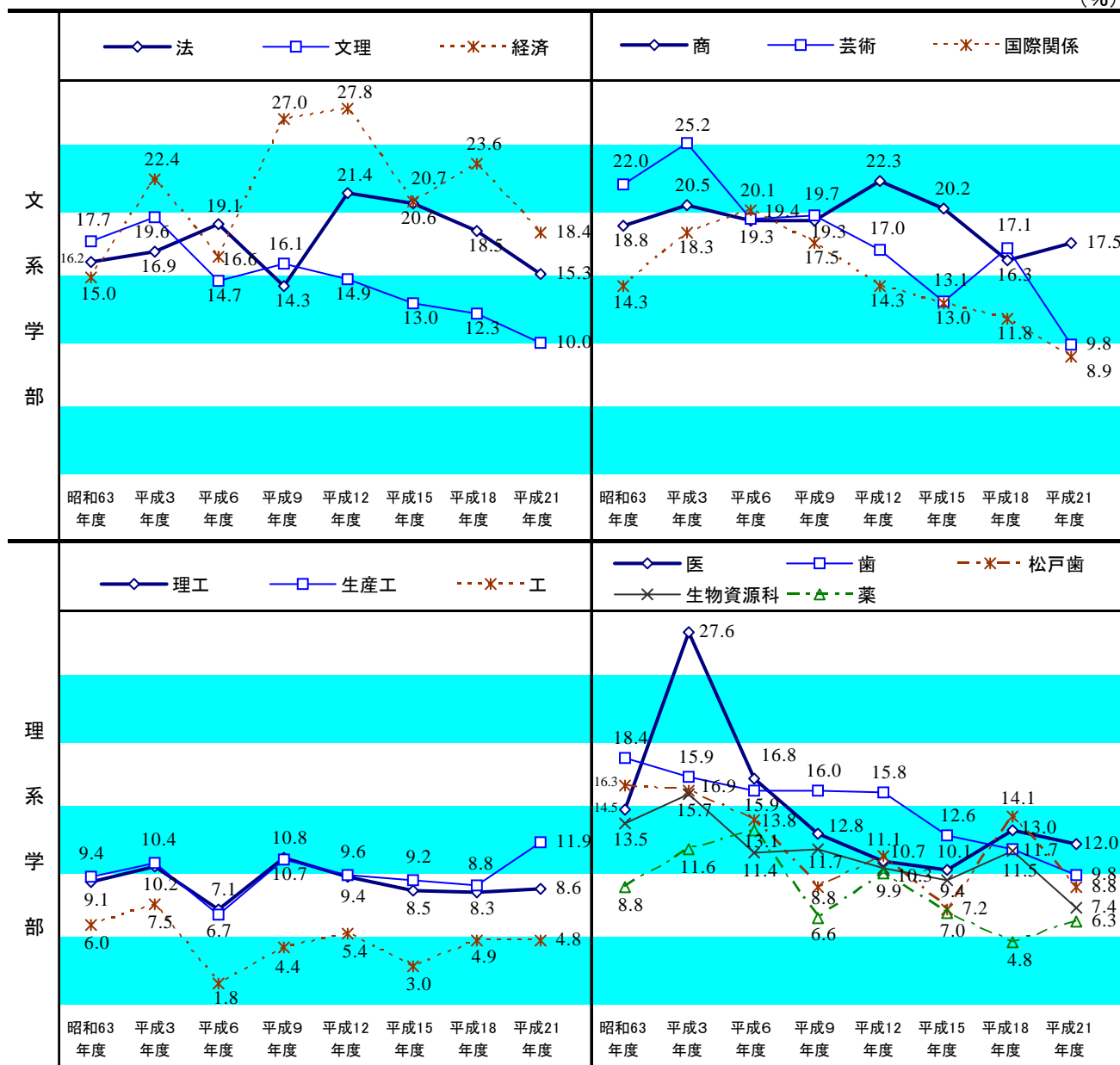
知識・技術や資格取得のために学外の各種学校（自動車教習所は除く）などに通った経験率を学部別に経年変化を見たものが下図です。

今回の調査で最も高かった経済学部を見ると、平成12年度のピーク時(27.8%) に比べると9.4ポイント減少しています。法学部も平成12年度から減少傾向を示しています。医学部は平成3年度には27.6%と突出して高くなっていましたが、その後漸減傾向にあります。全般的に見ると、学外での勉学率は減少傾向にある学部が多く、3年前より減少した学部は10学部となっています。

カリキュラムの改訂により、学内で資格講座やスキルアップのための講座が組み込まれてきたことに加えて、学生の経済事情の悪化も影響しているのかもしれませんが。

学部別、「学外の勉学経験率」の経年変化

(%)

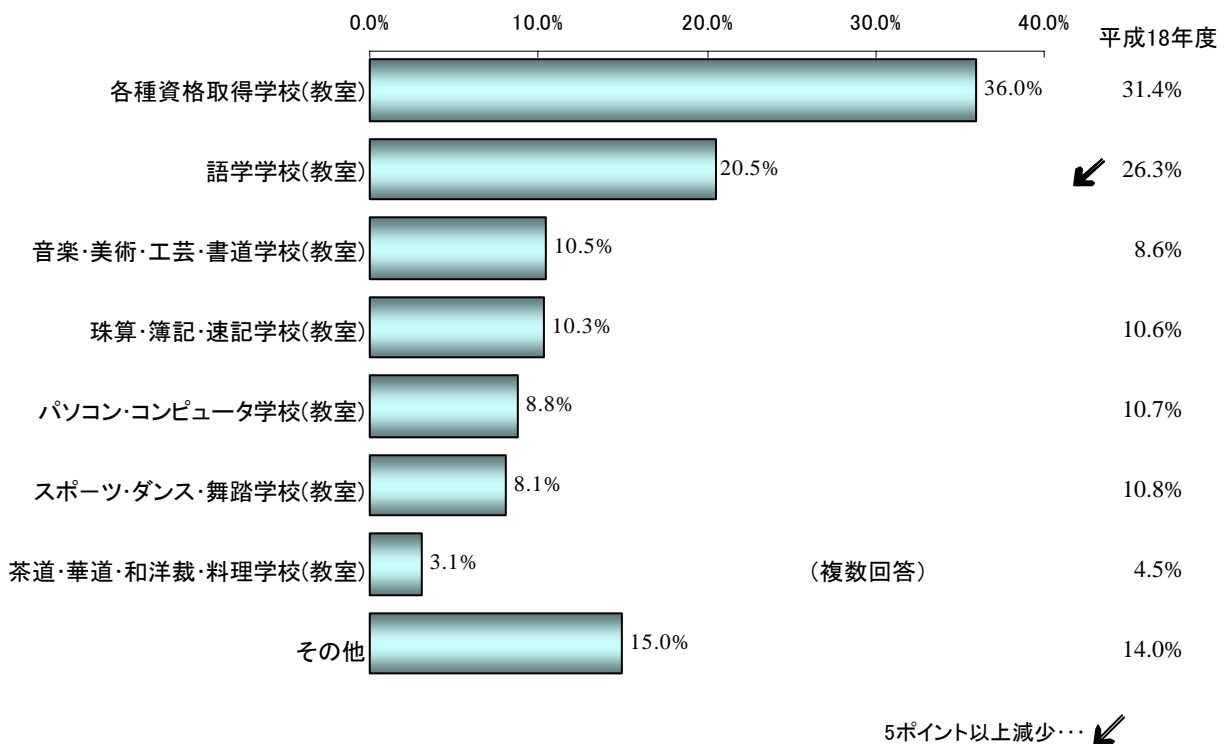


3.学外で通った各種学校の種類(経験のある学生)

各種学校の通学経験者の中では「各種資格取得学校(教室)」が36.0%でトップ。「語学学校(教室)」は減少傾向。将来に対する意識の変化を反映?

学外での勉学の経験がある学生が通う学校の種類を見ると、「各種資格取得学校(教室)」が36.0%で最も高く、「語学学校(教室)」が20.5%が続いています。「音楽・美術・工芸・書道学校(教室)」「珠算・簿記・速記学校(教室)」は約10%ずつとなっています。

3年前と比較すると、「語学学校(教室)」が5.8ポイント減少している点が目立ちます。一方、「各種資格取得学校(教室)」4.6ポイント増加しています。本学学生全体の行動を表しているわけではありませんが、学外で勉学する学生は、この3年間を見ても強まる経済不況に対する危機感から、将来の生活の経済面を意識する傾向が強まっている結果と言えます。また、「パソコン・コンピュータ学校」も減少しています。学内のコンピュータ施設の充実と共に授業で技術取得する学生が増える傾向が強まっていると考えられます。

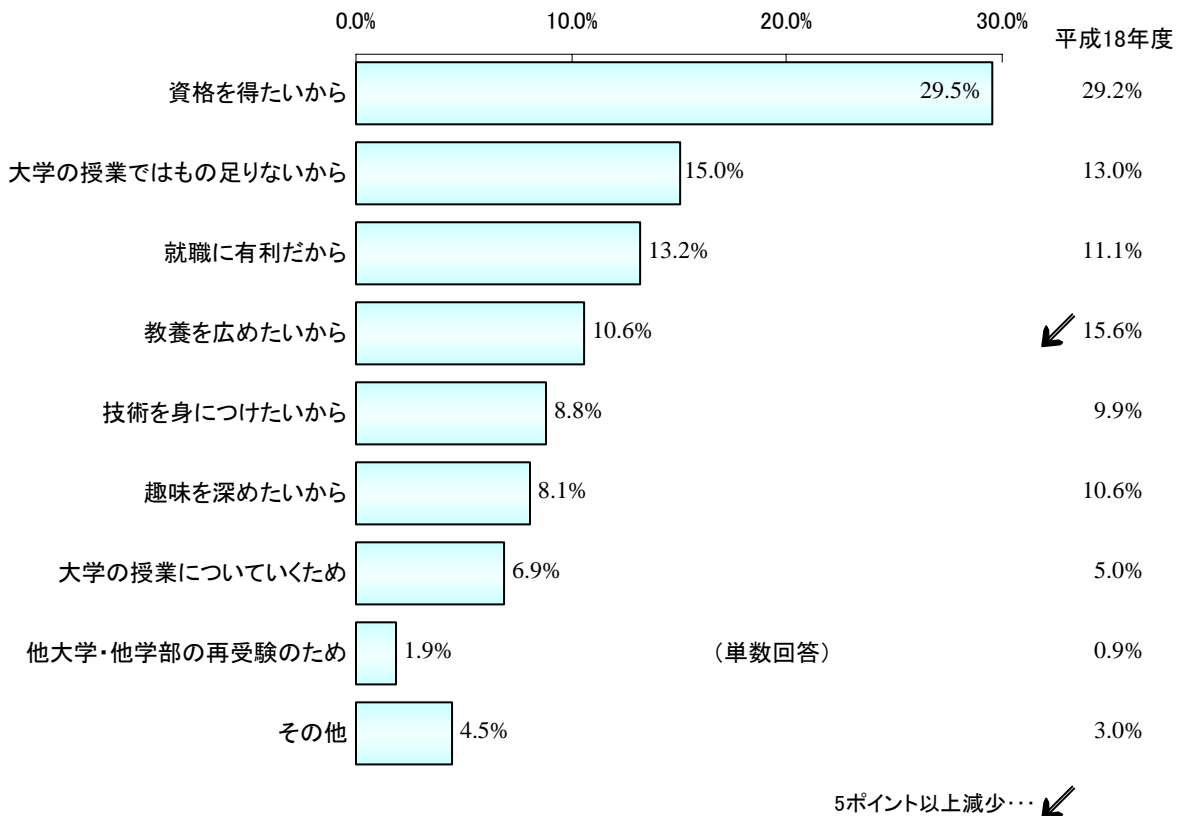


4.学外での勉学をする気になった理由(経験のある学生)

学外での勉学をする理由は「資格を得たいから」が29.5%でトップ。
将来に対する備えが動機となる傾向。

学外での勉学経験がある学生の勉学理由を見ると、「資格を得たいから」が29.5%で最も高くなっています。続いて「大学の授業ではもの足りないから」(15.0%)「就職に有利だから」(13.2%)の順となっています。この設問からも、資格や就職など卒業後の生活面を意識していることがうかがえます。

3年前と比較すると、上記を裏付けるように「教養を広めたいから」という理由は5.0ポイント減少し、順位が2番目から4番目に下降しています。



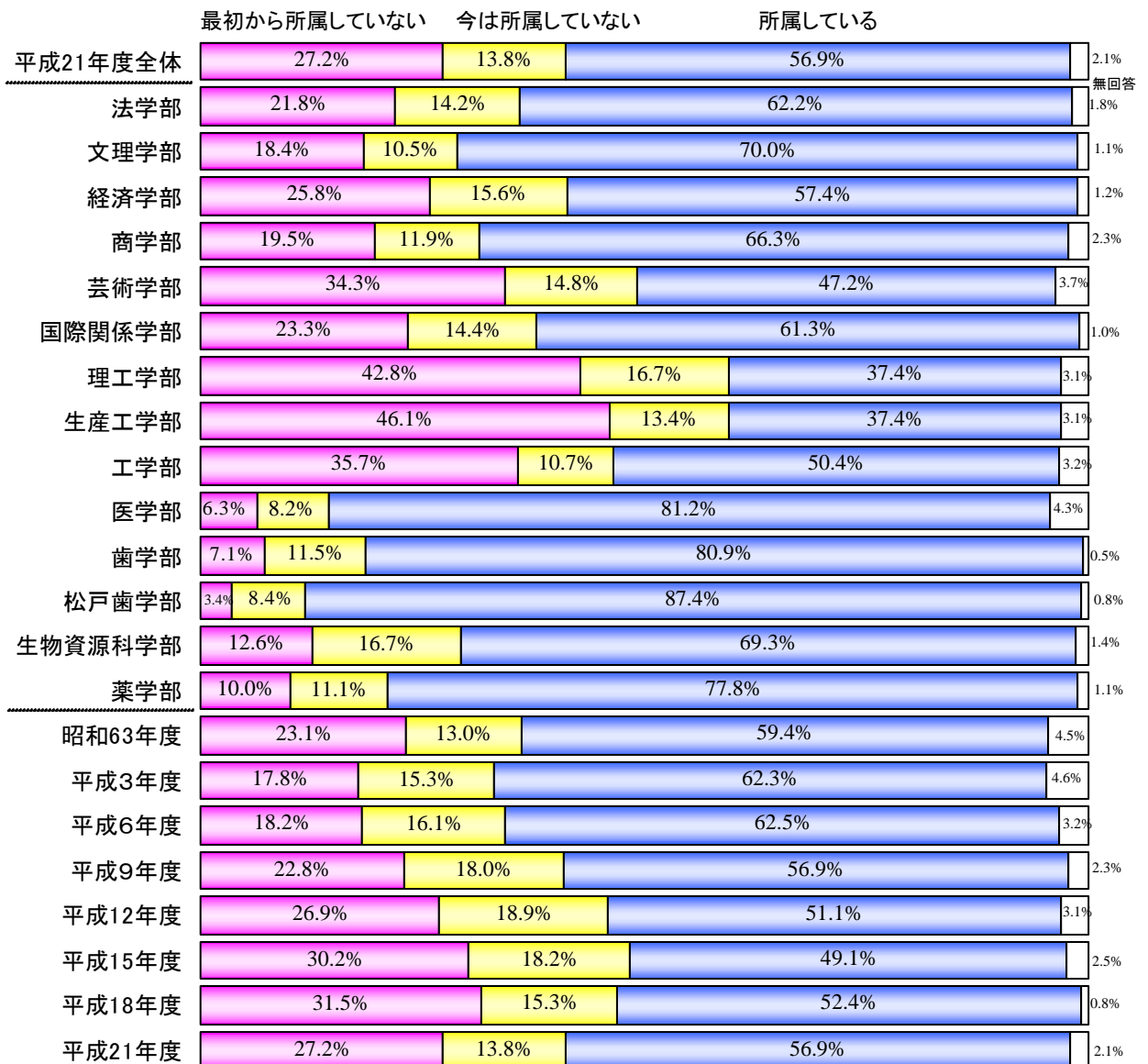
5.クラブ・サークルへの参加の有無

クラブ・サークルの所属率は56.9%。医・歯学部系で高い。
経年変化を見ると、クラブ・サークル活動離れに歯止め。

学生全体の調査時点(平成21年6月)でのクラブ・サークル所属率は56.9%、「今は所属してない」が13.8%、「最初から所属していない」が27.2%となっています。

学部別に見ると、松戸歯学部の87.4%を最高に、医・歯学部系の学生は所属率が80%台と高くなっていますが、生産工学部・理工学部では37.4%となっており、学部により大差が見られます。

経年変化を見ると、所属率は平成6年度の62.5%をピークに漸減し、平成15年度には半数を割るまで低下しましたが、今回の調査では56.9%と前回に続いて回復傾向を示しています。一方、最初から所属しない学生は平成3年度から漸増していましたが、今回は27.2%と減少しています。クラブ・サークル活動に対してはこの3年間で参加する傾向に転じていると言えます。

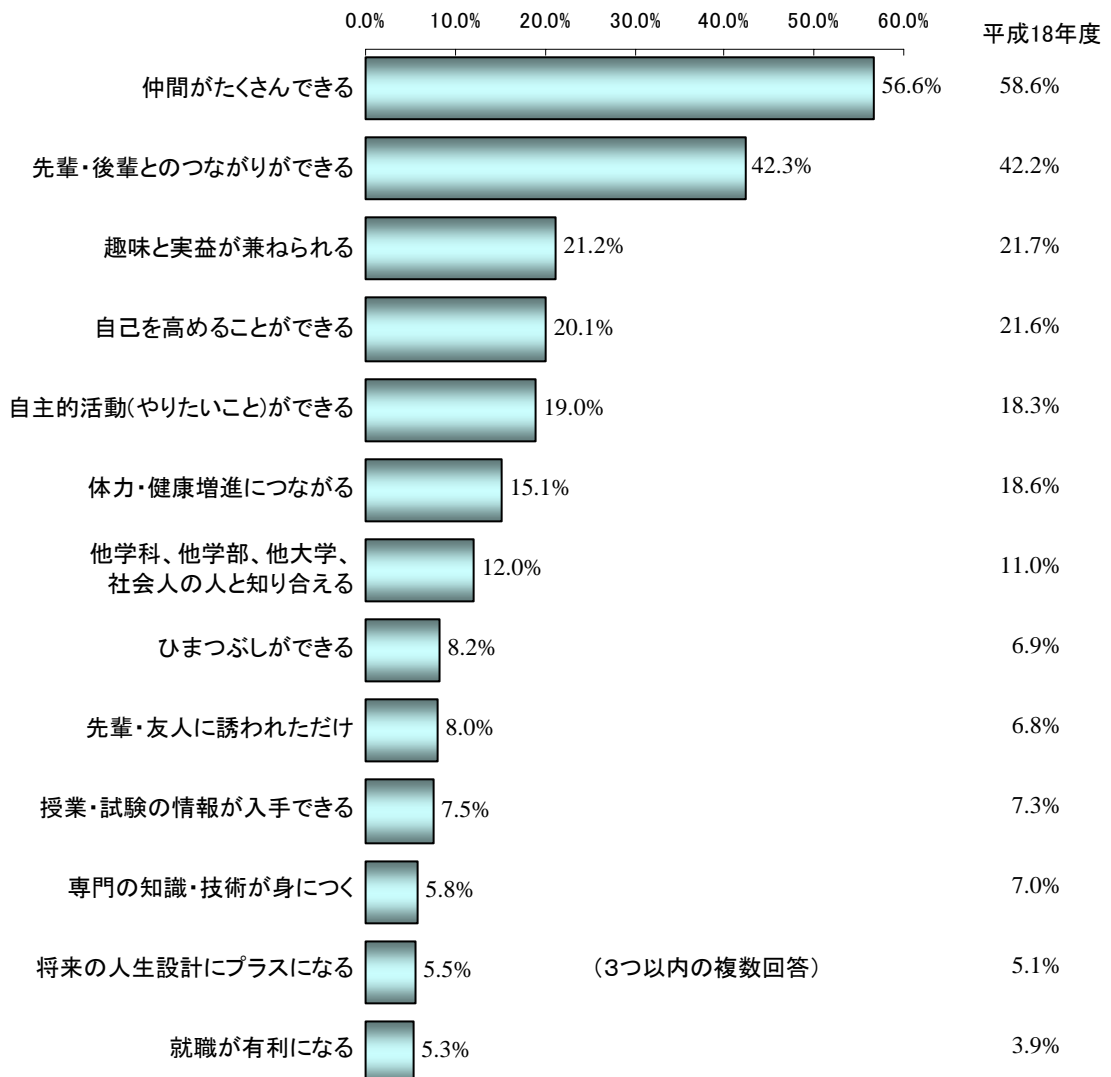


6.クラブ・サークルに参加する理由(現在「参加している」学生)

クラブ・サークルへの参加は、人間関係の構築が主要な目的。
 医学部・歯学部系では、クラブ・サークル活動によってコミュニケーション重視傾向。

クラブ・サークルに参加する理由を見ると「仲間がたくさんできる」が56.6%で最も高く、「先輩・後輩のつながりができる」が42.3%で2番目となっており、人間関係の構築が主要な目的となっていることがわかります。「趣味と実益が兼ねられる」「自己を高めることができる」「自主的活動ができる」「体力・健康増進になる」という回答は約15%~20%となっており、自分を中心とした欲求が二次的な目的として挙がっています。3年前と比較しても、大きな変化は見られませんでした。

医学部と歯学部系では、「先輩・後輩のつながりができる」が参加理由のトップとなっています。クラブ・サークルへの参加率も高いことから、同学部の学生は、在学中からコミュニケーションを大切にする傾向があると言えそうです。この傾向は調査開始年から21年間継続しています。

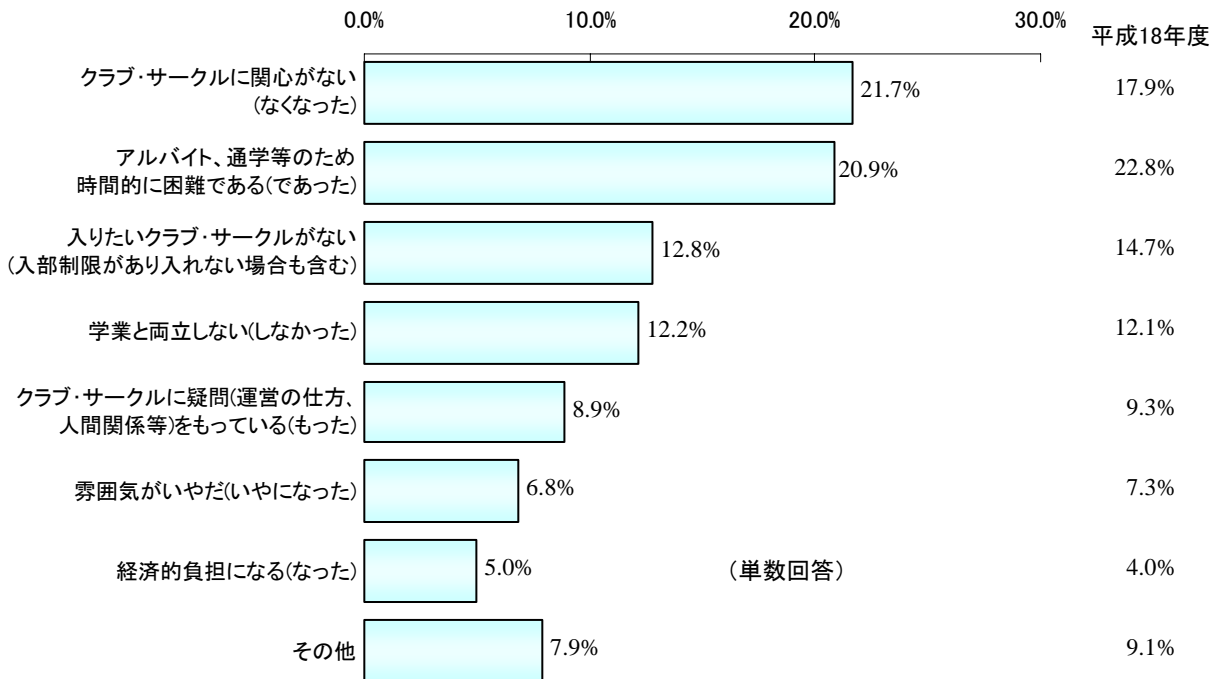


7. クラブ・サークルに参加しない理由(現在「参加していない」学生)

クラブ・サークルに参加しないのは、「関心がない(なくなった)」と「時間的に困難」が主な理由。
「関心がない(なくなった)」と「学業と両立しない」が漸増傾向

クラブ・サークルに参加しない理由として「クラブ・サークルに関心がない(なくなった)」と「時間的に困難である(であった)」が約20%で上位を占めています。「入りたいクラブ・サークルがない」と「学業と両立しない」が12%台で続いています。

経年変化を見ると、「時間的に困難」は平成3年度の14.8%から漸増傾向にありましたが、3年前と比べると減少に転じました。「関心がない(なくなった)」学生が平成6年度の14.7%から漸増傾向が続き、「時間的に困難」を逆転してやや上回っています。また、「学業と両立しない」も平成9年の5.7%から漸増傾向が続いています。学業などに重点を置いたためにクラブ・サークルに関心がない(なくなった)学生が増加していると考えられるかもしれません。

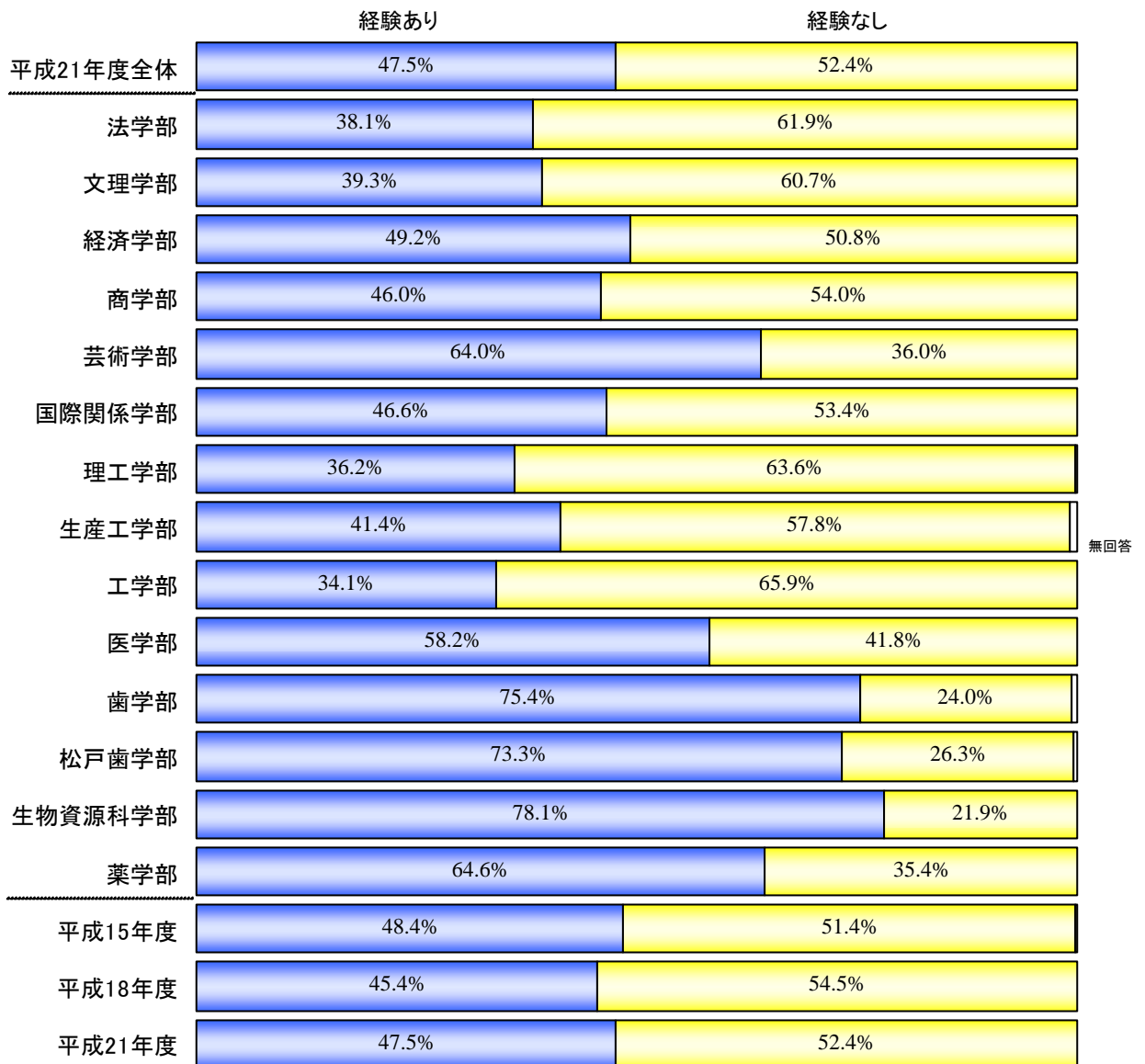


8. 学生主体行事への参加率

学生主体行事に参加経験のある日大生は47.5%と半数弱。
学部間で参加率の差が顕著。3年前に比べ参加率は増加。

NU祭・学部祭・体育大会など学生主体行事への参加について本学学生全体で見ると、「経験あり」が47.5%となっており、参加経験の無い学生が過半数を占めています。

学部別に参加率を見ると、生物資源科学部で78.1%と最も高く、歯学部系で70%台、芸術学部と薬学部で60%台と高くなっています。一方、工学部では34.1%と最も低く、理工学部・法学部・文理学部も30%台となっており、学部による差が顕著に表れています。前回（3年前）と比べて参加経験率は2.1ポイント増加しています。



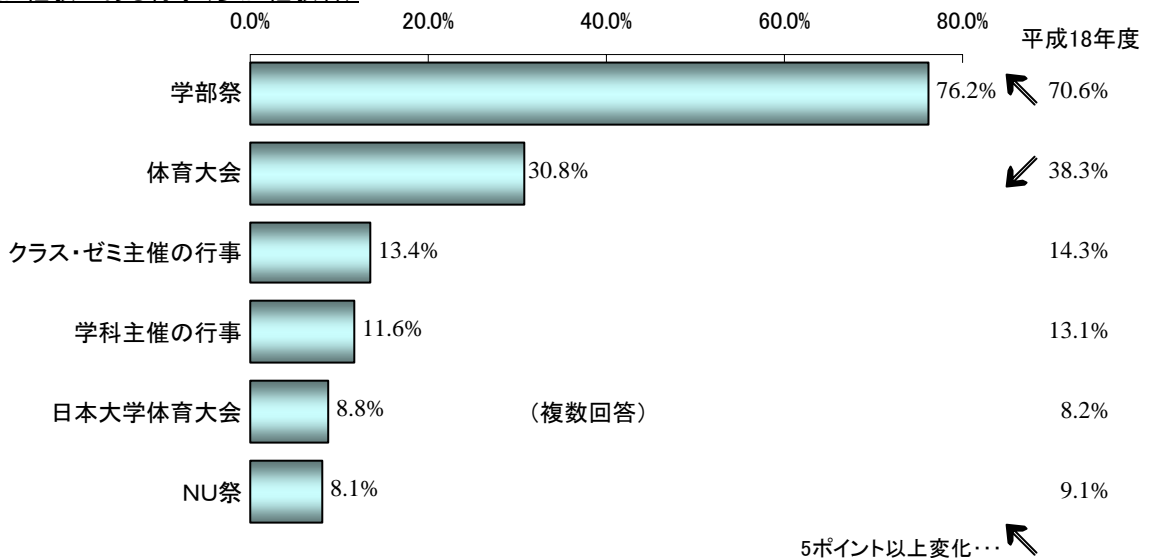
9. 参加経験のある行事と参加したことがない理由

参加経験は、キャンパスごとの「学部祭」が主、「体育大会」が続く。
参加したことがない理由は、前回同様「興味がない」がトップ。

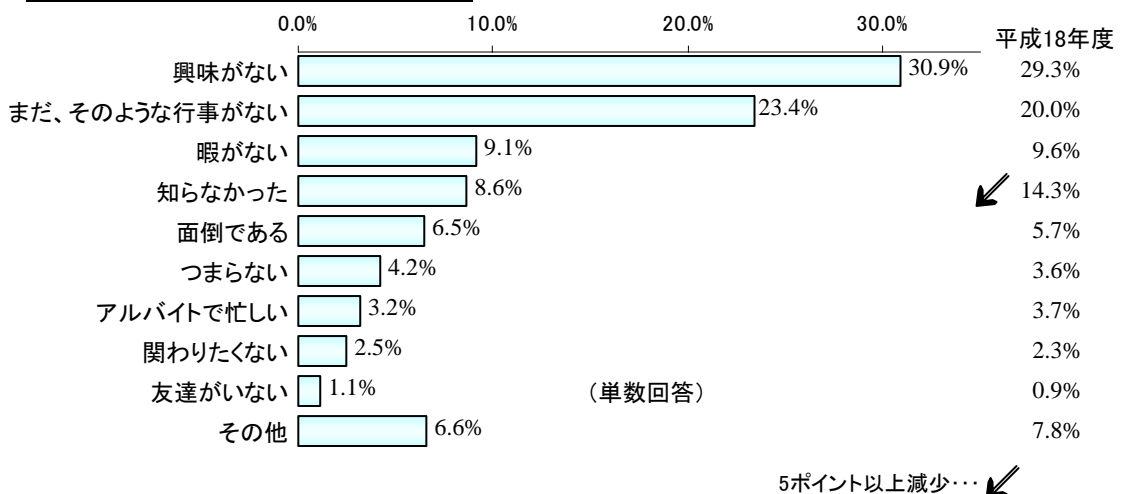
過去に参加経験がある学生主体行事は、「学部祭」が76.2%で最も高く、学部の「体育大会」が30.8%で続いています。学部ごとにキャンパスが分かれているため、学部行事への参加が中心になっており、「NU祭」や「日本大学体育大会」といった日大全体の行事は8%台にとどまっています。3年前に比べ、「学部祭」が70.6%から5.6ポイントの増加、一方「体育大会」は38.3%から7.5ポイントの減少となっています。

参加したことがない理由としては、「興味がない」が前回(29.3%)同様30.9%で最も高く、「まだ、そのような行事がない」(23.4%)が続いています。「知らなかった」は3年前の14.3%から5.7ポイント減の8.6%になっており、行事に関する情報伝達は改善傾向が見られます。

参加経験のある行事(参加経験者)



参加したことがない理由(参加未経験者)



10.学部間交流行事として参加したい行事

学部間交流行事は、「一同に集まる全日大文化フェスティバル」がトップ。
「学部間対抗のスポーツ競技会」「映画祭」「音楽祭」が続く。
3年前と行事の順位は変わっても、娯楽要素を含む行事への志向は変わらず。

学部間の交流行事として参加したい行事は、「一同に集まる全日大文化フェスティバル」が21.4%でトップ。「学部間対抗のスポーツ競技会」「映画祭」「音楽祭」が僅差で続いています。「講演会」は8.6%、「学術文化コンクールやコンテスト」は3.6%にとどまっております。娯楽要素を含む体育系・文科系の行事を通して学部間の交流を深めたいという学生が多いことがうかがえます。「一同に集まる日大文化フェスティバル」は理工学部・歯学部系・薬学部以外の10学部で20%以上の学生の支持を得ています。

前回（3年前）は「学部間対抗のスポーツ競技会」と「映画祭」がベスト2でしたが、今回は「全日大文化フェスティバル」に入れ替わっています。本年度、法学部創設120周年の機運が影響しているのかもしれません。

